

地図に親しむ活動を通して、少しずつ「都道府県」に慣れよう

都道府県名学習のすすめ

京都市立第三錦林小学校 松下 誠太郎

1 はじめに

1□・1□・2□・43□と板書。

「□の中には、ある漢字が入るんだ。何という漢字かな。」

「ううん、あっ、わかった。都道府県という漢字だ。聞いたことがあるよ。」

「そうだね。私たちが住んでいるのは、京都府。他にどんな都道府県があるんだろうね。」

ここで児童は、「地図帳」の、都道府県区分地図を広げながら、少しずつ声をあげ始める。

「先生、都のつくのは東京都だけだよ。道は北海道だけ。府のつくのは、京都府と大阪府だ。県は、いっぱいあるよ。」

今度は、見開きの「日本列島を見わたす地図」を広げながら、「～を見つけたよ。」とか「～に行ったことがあるよ。」等、生き生きとした声をあげている。地図帳は、児童にとって「発見の宝庫」である。都道府県名と位置を知ることが、地理学習の基本の一つだと思うが、ただ丸暗記に終始することに苦痛を感じる児童も少なくない。そこで、地図に慣れ親しむことのできる活動を通して、無理なく楽しく習得できることが大切である。

2 日本列島地図旅行

まずは、都道府県名だけではなく、形、土地のようす、交通等、日本列島の概要をとらえることのできる活動から始めよう。

①ぐるっと海道本州編

「日本列島を見わたす地図」で、青森県をスタートし、海に面した都道府県を反時計回りに回っていく活動（写真）である。青森県→秋田県→山

形県…と日本海側を回り、山口県まで行けば広島県→岡山県→兵庫県…と瀬戸内海～太平洋側を青森県まで戻っていく。児童は、次のようなワークシートの設問に答えながら活動を進めていく。

Q1 どうしても2度通らなければならない県はどこでしょう。

A (兵庫県)

Q2 1度も通らなかった県はどこでしょう。

A (奈良県、滋賀県、岐阜県、長野県、埼玉県、群馬県、栃木県)



九州編では長崎県を、四国編では香川県をそれぞれスタートし、反時計回りで回る。児童は、「海に囲まれた国、日本」を感じながら「都道府県名」に親しんでいく。

②でっぱりをさがしだそう！

青森市をスタートし、突き出た部分を除くようにしながら反時計回りで海岸線を進んでいくという活動（図1）である。児童は、鉛筆を進めながら「出っ張ったところを半島というのだね。」
「能登半島や房総半島は、大きく突き出ているよね。」

Q1 でっぱりを見つけて書き出そう。

例 (津軽半島) … (青森県)
(半島) … ()

「一番大きな半島は、紀伊半島。和歌山県や奈良県や三重県が全部入っているんだね。」

等、半島や都道府県名を自然に発声している。

③本州鉄道迷路旅行

「日本列島を見わたす地図」で、青森市をスタートし、鉄道をたどりながら、順次都道府県をめぐり山口県下関市をめざす(図2)。児童は、

「新幹線は、わりとまっすぐに走っているね。」

「海の近くを通っている鉄道が多いよ。」

「山の多いところは、鉄道もあまり通っていないみたいだよ。」



図1 帝国書院「小学生の地図帳(初訂版)」P.16~19

とつぶやきながら、本州を南下していく。

④飛行機でわたる日本列島

「日本列島を見わたす地図」を使う。色の違うおはじきを2個用意する。二人で対抗戦を行う。一人は千歳空港に、もう一人は那覇空港におはじきを置く。ジャンケンで勝った方が、他の都道府県にある飛行場におはじきを移動させ、その都道府県名をカードに記していく。相手が記録した都道府県に行くことはできない。たくさん記録できた方が勝ちである。ゲーム感覚で楽しく活動することができる。児童は、日本には多くの飛行場が



図2 「小学生の地図帳(初訂版)」P.16~19

あることに気づく。また、地図中の「かんたんものさし」を参照することで、日本列島がとても長いということにも気づいていく。

⑤都道府県名〇行しりとり

都道府県区分図を参考にしながら、都道府県名のしりとりをしていく。

例 あおもり→(う行はないので次のワ行)
わかやま→(マ行)みやぎ→ぎふ→ふくい→
いしかわ→(ワ行はないので次のア行)あいち…

3 おわりに

私は、小学生の頃、地図や時刻表を見ることが大好きであった。行ったことのある地名に赤丸、ニュースで聞いた地名に青丸をつけていた。また、京都からいろいろな場所への地図旅行をし、鉛筆でたどっていったこともよく覚えている。こうして知らず知らずのうちに地図に親しんでいたのである。だから、児童には、「地図に親しむ→地図を知る→地図に学ぶ」という道筋を経ながら、わくわくするような学習を行なってほしいと思っている。